

ま え が き

平成18年10月より現代GP事業に取り組んでまいりました。本事業は工都新居浜の活性化に資するために、身近な地域社会と連携し、高専学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動を、PDCAサイクルを回しながら、継続的に展開するシステムを構築することを狙いとしています。本事業は平成18年度から平成20年度の3年間の取組でした。このたび、平成21年3月に取組を終了し、報告書をお届けすることになりました。この3年間の取組を振り返ってみたいと思います。

「ものづくり人材育成」、「まちづくり・地域の求心力向上」にわたり、6プロジェクトに取り組みました。「ものづくり人材育成」ですが、出前授業（小中学生対象）は平成20年度は33件となりました。参考として、イベントへの参加は9件でした。このためには、小中学校理科・中学校技術科のニーズ調査に基づき検討した30テーマを掲載した「出前サイエンス講座」ーガイドブックーを製作して小中学校へ配布しています。また、小中学校の先生方の、ものづくり教材開発実技研修会を3件（小学校理科、中学校理科、中学校技術科）実施しました。この実技研修会は平成19年度からは新居浜市との連携協定に基づく実施事項に指定されました。「まちづくり・地域の求心力向上」では、ロボットのプロトタイプ製作やシステム製作で地域と連携いたしました。

平成20年度の評価委員会では、取組全般にわたり評価をいただきました。「高専学生に対する教育効果」については、平成20年度は延べ226名の学生が参加しており学生参加が進展していることが評価されました。学生自身の自己点検として実施したアンケート結果では、自主性、責任感、社会貢献等について、また、低学年を指導した学生の回答では課題解決力、プロジェクトマネジメント能力について、ともに肯定的回答が多数であり、地域連携プロジェクト型ものづくり活動の教育効果がみられたと評価されました。

「地域の活性化への寄与」については、地域ものづくりコーディネーターの活躍により、小中学校と新居浜高専の間で連携が進展して「実のあるネットワーク作り」がほぼ形成されてきたと評価されました。まちづくりの各プロジェクトは地域へのサポートとして高く評価されました。ただし、プロトタイプ製作等で卒業研究となり、低学年の参加については検討課題とされました。今後は、出前時間帯の調整等の課題もありますが、小中学校への出前活動、実技研修会活動等、ものづくり教育支援センター、高度技術教育研究センターが中心となって自主的に活動を継続していくこととなりました。

本事業は多くの方々のご協力により遂行することができました。事業計画を審議・推進していただいた推進運営委員会の方々、取組を熱心に評価いただいた愛媛大学定岡先生をはじめとした評価委員会の方々、実行委員会につきましては小中学校の教科会会長の先生方にお世話になりました。組織の運営につきましては、新居浜市（教育長、教育委員会、小中学校、企画部、別子銅山文化遺産課等）、新居浜商工会議所、東予産業創造センター、新居浜まちおこし委員会、マイントピアを楽しく育てる会、愛テクフォーラム等のご協力・ご参加を得て遂行することができました。有り難うございました。また、愛媛県義務教育課、県内自治体の教育委員会・小中学校、新居浜商店街連盟、喜光地商栄会、県立新居浜南高等学校のご協力に深く感謝致します。「地域ものづくりコーディネーター」には中学校校長先生OBの濱田先生にお願いいたしました。「プロジェクトアソシエイト」の方々にもご協力をいただきました。これらの皆様のご協力・ご参加を得て、本校の教職員・学生が一丸となって努力することにより、本事業を成功裏に終了することができました。有り難うございました。

平成21年3月

高度技術教育研究センター長 川崎 宏一